

★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

170号

★ 2015年6月28日

★ 常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 図書館では再度 説明会があります

7月8日(水) 18時30分～
於 中央図書館地下1F 視聴覚室

今回の説明会は、前回出席者から出た質問に対する回答と、うやむやだった跡地利用の具体案が説明される模様。私達が出したパブリックコメントについても、遅まきながら回答するとのこと。

それにしても板橋区では、なぜ区民が計画に参加できない仕組みになっているのでしょうか。職員や議員のみならず区民全体にそれぞれ「お上」意識や「上意下達」「上から目線」「民は之に由らしむ可し、之を知らしむ可からず」といった感覚、それに対して「寄らば大樹の陰」「長いものには巻かれる」的ないい加減なお任せ体質がしみついているのでしょうか。

武蔵野プレイスの職員が、自分達はどうやったら市民に喜ばれるか、ということだけを考えている。と言っていたことを思い出します。

自分達のまちのことは自分達で決める、という主体性が求められています。税金をはらっているのだからよき様に計ってもらえる、と思っているなら大間違い、納税者としてきちんと判断しましょう。

常盤台での図書館の存続を望まれるのなら、ぜひ参加してください。

○ 憲法カフェ

安倍内閣が成立を目指す安保関連法案、国会で論戦が続いています。集団的自衛権については憲法学者の自民党推薦の人までが違憲と判断、百数十人の学者のうち、合憲と主張する学者はたった3人と判明しています。おまけに最近では批判するメディアを潰すとか広告収入をなくすとか威圧的発言があつて非難され、雲行きは怪しくなってきました。

自民党が最終的に目的とするのは現憲法の改正ですが、そもそも憲法とは？改正案の問題点は？という疑問について、若手弁護士会の人たちが、「憲法カフェ」と称して、お茶を飲みながら解りやすく解説してくれます。気軽に話を聞いてみませんか。

7月6日(月) 午後1時30分～
南(北ではない)常盤台集会所洋室
資料代 800円程度

○ おかめ桜植え替えられる

先日、若木なのに枯れてしまったおかめ桜が新しい苗木に植え替えられました。

植え替えに適した時期ではなかったのか、今度の木も葉っぱがなんだか勢いが無いのが気がかりです。

Tさんが前のような事にならぬよう、ほとんど毎日水をやってくれています。草花の苗と同じで、植えっぱなしではだめ、後の手入れが大切だ、とTさんは言っています。北口公園に桜がほしいと要望した人たちがいるそうですが、一緒に手入れに参加してはどうでしょうか。数年後、その下でお花見が出来る日を夢見て。

今年のカルガモ

五月下旬、常盤台小学校の傍を、カルガモ親子が歩いていたそうです。子ガモはなんと十三羽！石神井川を目指していたのでしようが、無事に環状七号線を渡り、あの絶壁を飛び降りたのでしょうか。

平和公園では六羽の子鴨が親鴨の監視のもとで泳ぎまわっています。

親は片時も目を離さず、人間が我が子を虐待したりするのは何故なのか考えてしまいます。

言葉の幾つか(3)

* 肅々と

この言葉を「上から目線」と断じ去ったのは翁長沖縄県知事です。

普天間基地の辺野古移設について四月五日、菅官房長官と会談した際のこと。菅氏が辺野古での作業を「肅々」と進めると繰り返してきた事に対し、「問答無用と云う姿勢が感じられる。上から目線の『肅々』と云う言葉を使えば使うほど、県民の怒りは増幅していくと思う」と述べています(朝日新聞六日)。

本来は自己の正しい信条に従って、周囲からの圧力に屈することなく物事を推し進めていく、という立派な態度を形容していたのでしようが、最近の政治家が、民意を無視する時に平然と使うようになったので、内容が墮落してしまっただけです。

景観市民運動全国ネットの

勉強会から

六月二十七日、狛江市の泉の森会館で、脱原発・反原発の勉強会がありました。

三人の講師を招いて、熱心な発表と意見交換がありました。福島原発事故から四年あまり、政府は世論を無視し、着々と再稼働に向けて動いており、あれだけのひどい事故も風化しつつあるように思われるのは残念です。

四方哲さん 月刊「むすぶ」発行(ロシナンテ社)事故以来ずっと福島レポーターを出し続ける。ロシナンテはドン・キホーテの乗馬の名。私達も風車に挑むドン・キホーテであり、それを応援する馬となる、と云う意味の命名と推察。

菅野千文さん堀北理枝子さん 調布市で原発のない暮らしの運動を展開。非民主的な地域議会のあり方に疑義を抱くなど、私達も同じ経験をしている。

菅波完さん 高木仁三郎市民科学基金事務局を務める。高木基金は故高木氏の三千万の遺産を元に、会費や寄付などに支えられ、既に一億五千万円以上の助成を行ってきた。現代の科学技術がもたらす問題等について、行政や企業の利害から独立した立場から、科学的に根拠のある情報や分析を市民社会に提供することが、高木基金の目指す「市民科学」の役割である、と。

日本はまだ捨てたものではない、と勇気づけられる人たちがいた。

常盤台公園のはなづくり

六月十二日に苗を植え替えました。区の公園課から配布される苗では足りず、マーマレードの売り上げから、ペチュニアと日々草を買い足しました。三丁目の花屋さんに色を指定して持ってきてもらいました。区からの花は色の指定ができないのでそのまま植えますが、今回は少し配色の工夫ができました。

公園ではボール遊びは禁止となっていますが、サッカーの試合が放送される時期になると、どうしても男の子がボールを蹴っています。止めなさいと言うべきか否か・・・

芝生では相変わらず雑草との戦いが続きます。Mさんが特殊な芝の種をひとつまみ分けてくださいました。発芽するかどうか実験中です。これが育つと自然に雑草を排除してしまうとか。

公園のスタジイの穴で子育てしたスズメが、六月にも雛を孵しました。五月生れの子スズメは、いつの間にか親にエサをねだる事を止め、今ではまだオドオドしながらのほっそりとした身体ですが、独立して行動しています。

今度の雛が巣立つ際は、カラスがいきなり穴にかぶさって覗きこんだので、冷や冷やしました。親たちは大騒ぎでしたが、巣立ちの時が一番危険なのでしょう。